

社会における協働



(I) 協働することの難しさ

私たちの社会は、皆が同じ目的をもって生きているわけではない。そこで自分の利益を優先してしまう人が現れれば、価値観の違いや利害の対立が生じることになる。「自分1人くらい」「他の人もこうしている」という考えによって起こる自己中心的な行動が、互いの足を引っ張り合い、**協働の利益**を失ってしまうのである。

Cf.[¹]: 特定の行動を選ぶように仕向ける誘因。例「投票に行くと景品がもらえる」→投票に行く自分の利益を最優先する人には、相手を裏切る[¹]がある故に行動すると考えられる。

Work ● 囚人のジレンマ問題について考える

協働について考える際に有名な思考実験で「囚人のジレンマ」という話がある。犯罪容疑で捕まった2人を別の部屋で取り調べを行い、司法取引を持ち掛けるという設定。ここで黙秘を続けるか、自白をするかによって自分の刑期が軽減されるとした場合、自分の利益を優先して互いを裏切ってしまうという実験。この理論を用いて、心理戦のゲームをやってみましょう。

STEP1 これから5回の選択をします。1回ごとに互いの選択を見せ合い、点数を加算する。
最後により多くの点数を手に入れられたら勝利! [協力 or 裏切り]

点数表	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	合計
A						
B						

		B	
		協力	裏切り
A	協力	A2点 B2点	A-1点 B3点
	裏切り	A3点 B-1点	A0点 B0点

「自分の得点の最大化」という目的がある以上、どこかで「裏切り」を選択しなければならないが、その選択によって互いに点数が取れないリスクも生じる。これが目的の違いにより生まれるジレンマである。

STEP2 ゲームの結果をいくつかの組に発表してもらいます。2人の合計点を足しておいてください。

例えばゲームの勝利条件が「2人の合計点を最大にしてください」というものであれば、全て「協力」を選択すれば最大の点数になり必ず勝利できる。しかし現実では、社会全体よりも自分の利益を優先させてしまうことがある。理想的な社会の姿は、このゲームで例えるならば「全体の点数ができるだけ高いこと」といえる。多くの人が「協力」を選択するように、法やルールを用いて「裏切り」に制裁を与えることも効果的ではあるが、中には制裁が適さないこともある。どうしたらこのジレンマを克服し、協働の利益を確保することができるでしょうか。

(II) 協働を実現するために

■ 市場による調整

経済の面では、それぞれがもつ資源や資産に²]がつけられたうえで自発的に交換することで、利害の調整が行われる。市場の**効率性**と**公平性**のどちらを取るべきかの³]が課題となる。

■ 国家による調整

法に基づく秩序などにより強制力を行使することが国家の役割。
政治体制や政策を中心とする政治の力によって、利害対立の調整に努めてきた。

近代以降の国家 … [4] (憲法による権力の制限を認める考え方)
[5] (私たち自身が政治の決定権をもつありかた)

ヨーロッパの近代国家 = 王による支配で成り立っていた。(絶対王政)

この頃の思想 = [6]] → 王による独裁支配を正当化



17c~18c **市民革命** : 政治の仕組みを根本的に変えよう! という動きが世界的に広まる

[7] : 王権神授説を否定する形で、新たな国の在り方を示していった。

	8	11	15
主著	9	12	16
自然状態	人は生来自己保存の欲望があり、欲望を満たすために互いに争い合う → [10]] → 人間は恐怖と不安に襲われる。	人は理性が備わっており、基本は自由・平等・平和の状態が保たれる	人には思いやりの情があり、完全に自由で自足的な存在
理想国家	すべての権利を強大な統治者へ譲渡し、自然権を保護してもらう	自然権の一部を代表者([13])に信託することで、国家を形成する ※ 議会が個人の権利を侵害する場合は [14]] の行使を認める	自らの共同体にて [17]] に基づいた政治を行う
影響	結果的に絶対王政を正当化	議会を中心とする間接民主制を主張 後のアメリカ独立宣言に影響	[18]] を主張 後のフランス革命に影響

このような国家の介入を通して、さまざまな格差や利害対立を調整することが現代国家の課題である。
話は戻るが、そもそも人間は、「囚人のジレンマ」のように常に自分の利益だけを追求する存在であるだろうか？
「最後通告ゲーム」をやってみると、時には利他的・互恵的な行動をとることもあることがわかる。
これらの思考実験を通して学んだことを生かし、最後に現実的な問題を考えてみよう！

Work 協働をもたらすアイデアを考えてみよう

冒頭を実施した「囚人のジレンマ」が想定するような、自己の利益を追求する人々が集まる中で、どのように協働を成立させることができるだろうか？

テーマ：駅付近の「迷惑駐輪」を防ぐために、どんな方法があるだろうか？

自分の意見

他者の意見

- ・
- ・
- ・

社会における協働



(I) 協働することの難しさ

私たちの社会は、皆が同じ目的をもって生きているわけではない。そこで自分の利益を優先してしまう人が現れれば、価値観の違いや利害の対立が生じることになる。「自分1人くらい」「他の人もこうしている」という考えによって起こる自己中心的な行動が、互いの足を引っ張り合い、**協働の利益**を失ってしまうのである。

Cf.[¹ **インセンティブ**]: 特定の行動を選ぶように仕向ける誘因。例「投票に行くと景品がもらえる」→投票に行く自分の利益を最優先する人には、相手を裏切る[¹]がある故に行動すると考えられる。

Work ● 囚人のジレンマ問題について考える

協働について考える際に有名な思考実験で「囚人のジレンマ」という話がある。犯罪容疑で捕まった2人を別の部屋で取り調べを行い、司法取引を持ち掛けるという設定。ここで黙秘を続けるか、自白をするかによって自分の刑期が軽減されるとした場合、自分の利益を優先して互いを裏切ってしまうという実験。この理論を用いて、心理戦のゲームをやってみましょう。

STEP1 これから5回の選択をします。1回ごとに互いの選択を見せ合い、点数を加算する。
最後により多くの点数を手に入れたら勝利! [**協力** or **裏切り**]

点数表	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	合計
A						
B						

		B	
		協力	裏切り
A	協力	A2点 B2点	A-1点 B3点
	裏切り	A3点 B-1点	A0点 B0点

「自分の得点の最大化」という目的がある以上、どこかで「裏切り」を選択しなければならないが、その選択によって互いに点数が取れないリスクも生じる。これが目的の違いにより生まれるジレンマである。

STEP2 ゲームの結果をいくつかの組に発表してもらいます。2人の合計点を足しておいてください。

例えばゲームの勝利条件が「2人の合計点を最大にしてください」というものであれば、全て「協力」を選択すれば最大の点数になり必ず勝利できる。しかし現実では、社会全体よりも自分の利益を優先させてしまうことがある。理想的な社会の姿は、このゲームで例えるならば「全体の点数ができるだけ高いこと」といえる。多くの人が「協力」を選択するように、法やルールを用いて「裏切り」に制裁を与えることも効果的ではあるが、中には制裁が適さないこともある。どうしたらこのジレンマを克服し、協働の利益を確保することができるでしょうか。

(II) 協働を実現するために

■ 市場による調整

経済の面では、それぞれがもつ資源や資産に[² **価格**]がつけられたうえで自発的に交換することで、利害の調整が行われる。市場の**効率性**と**公平性**のどちらを取るべきかの[³ **トレードオフ**]が課題となる。

■ 国家による調整

法に基づく秩序などにより強制力を行使することが国家の役割。
政治体制や政策を中心とする政治の力によって、利害対立の調整に努めてきた。

近代以降の国家 … [4 **立憲主義**] (憲法による権力の制限を認める考え方)
[5 **民主主義**] (私たち自身が政治の決定権をもつありかた)

ヨーロッパの近代国家 = 王による支配で成り立っていた。(絶対王政)

この頃の思想 = [6 **王権神授説**] → 王による独裁支配を正当化



17c~18c **市民革命** : 政治の仕組みを根本的に変えよう! という動きが世界的に広まる

[7 **社会契約説**] : 王権神授説を否定する形で、新たな国の在り方を示していった。

	8 ホブズ	11 ロック	15 ルソー
主著	9 リバイアサン	12 統治二論	16 社会契約論
自然状態	人は生来自己保存の欲望があり、欲望を満たすために互いに争い合う → [10 万人の万人に対する闘争] → 人間は恐怖と不安に襲われる。	人は理性が備わっており、基本は自由・平等・平和の状態が保たれる	人には思いやりの情があり、完全に自由で自足的な存在
理想国家	すべての権利を強大な統治者へ 譲渡 し、自然権を保護してもらう	自然権の一部を代表者([13 議会])に 信託 することで、国家を形成する ※議会が個人の権利を侵害する場合は[14 抵抗権]の行使を認める	自らの共同体にて[17 一般意志]に基づいた政治を行う
影響	結果的に 絶対王政を正当化	議会 を中心とする 間接民主制 を主張 後の アメリカ独立宣言 に影響	[18 直接民主制]を主張 後の フランス革命 に影響

このような国家の介入を通して、さまざまな格差や利害対立を調整することが現代国家の課題である。
話は戻るが、そもそも人間は、「囚人のジレンマ」のように常に自分の利益だけを追求する存在であるだろうか？
「最後通告ゲーム」をやってみると、時には利他的・互恵的な行動をとることもあることがわかる。
これらの思考実験を通して学んだことを生かし、最後に現実的な問題を考えてみよう！

Work📌 **協働をもたらすアイデアを考えてみよう**

冒頭を実施した「囚人のジレンマ」が想定するような、自己の利益を追求する人々が集まる中で、どのように協働を成立させることができるだろうか？

テーマ：駅付近の「迷惑駐輪」を防ぐために、どんな方法があるだろうか？

自分の意見

他者の意見

- ・
- ・
- ・